

大阪市在宅医療・介護連携推進事業に関する 医療施設等アンケート調査報告書（概要）

調査概要

在宅医療・介護連携推進事業において、既存データで把握できない項目についての情報収集を行うため、医療と介護の連携のうえでの課題整理と事業評価の基礎資料となる医療側に着目したアンケート調査を実施した。

調査方法

対象施設へ本調査についての調査票を送付し、返信用封筒による郵送、FAX、Web(別途Web上に回答環境を設置)のいずれかの方法での回答を依頼した。
令和3年11月5日から令和3年11月30日までを調査期間とした。
なお、前回調査は平成30年2月21日から平成30年3月9日までを調査期間とした。

回収結果

対象施設	対象数	回収数	有効 回答数	有効回答数 ／対象数
病院	175	117	117	66.9%
在宅療養支援診療所	746	391	389	52.1%
在宅療養支援歯科 診療所	324	188	188	58.0%
在宅患者訪問薬剤 管理指導料届出薬局	1,540	1,022	1,018	66.1%
訪問看護ステーション	458	336	329	71.8%
合計	3,243	2,053	2,041	62.9%

調査結果

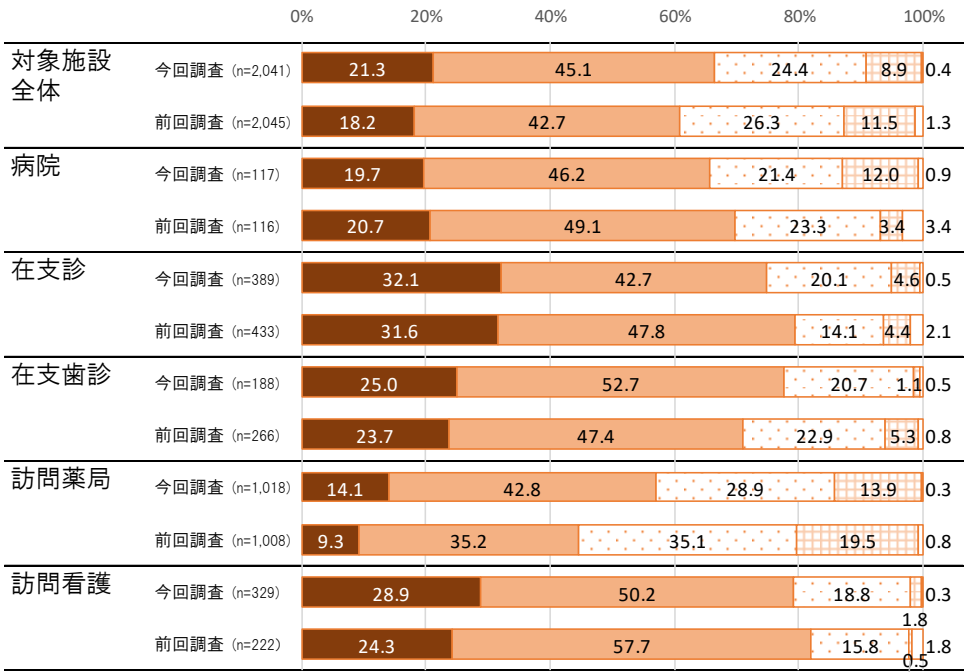
①アウトカム指標

貢献度

貴施設は、地域の在宅医療の推進に対して、どのくらい貢献できていると思いますか

⇒『貢献できている』やや貢献できている』の割合

66.4%



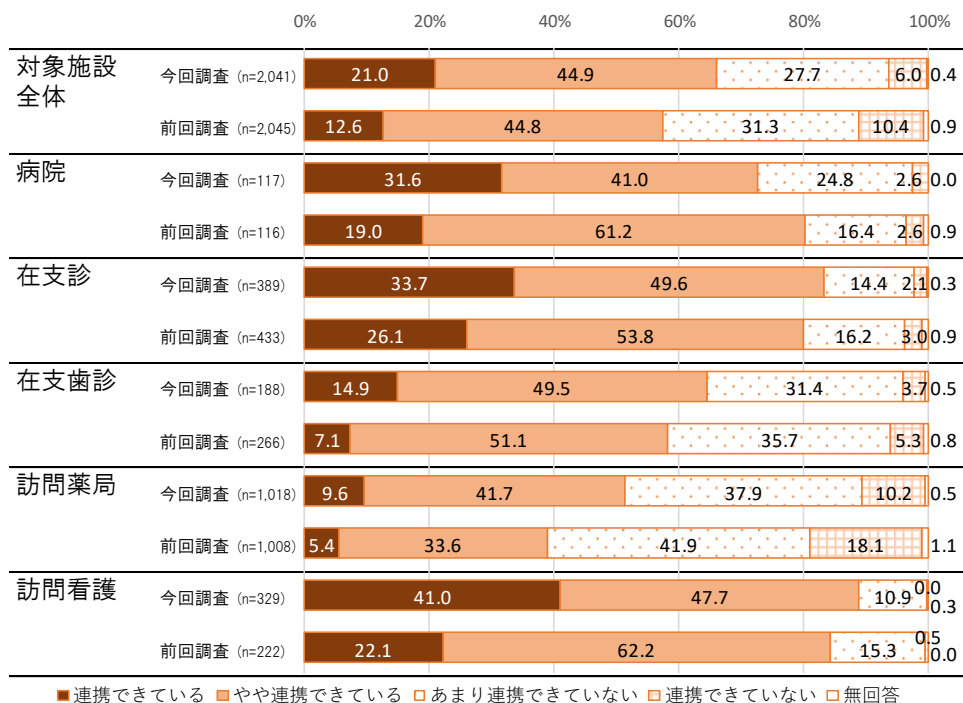
■ 貢献できている ■ やや貢献できている □ あまり貢献できていない □ 貢献できていない □ 無回答

・施設全体では7割弱、訪問看護と在宅歯診は約8割、在宅診療は約7割、病院は7割弱、訪問薬局は6割弱。
・在宅歯診、訪問薬局で、前回調査より増加。

連携度

貴施設は、地域他職種・他機関と、全般的に、どのくらい連携（連絡、相談、調整、意見交換、情報共有等）できていると思いますか

⇒『連携できている』『やや連携できている』の割合 **65.9%**

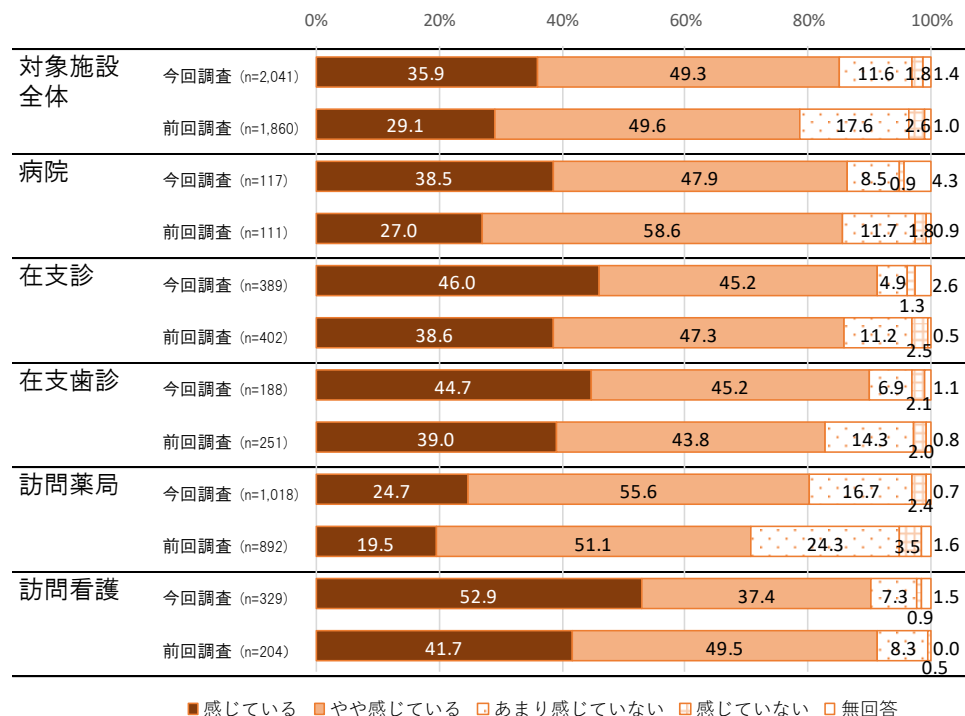


- ・施設全体では7割弱、訪問看護は約9割、在支診は約8割、病院は約7割、在支歯診は6割強、訪問薬局は約5割。
- ・病院以外の施設で、前回調査より増加。

満足度

あなたは、貴施設での仕事に満足感を感じていますか

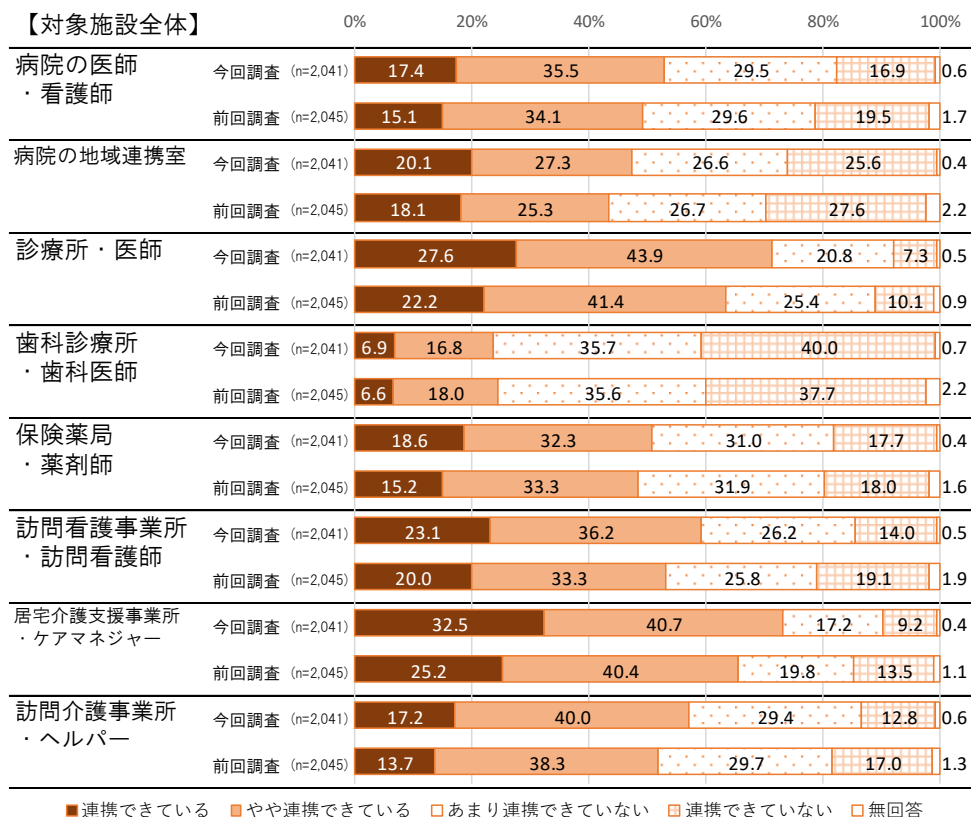
⇒『感じている』『やや感じている』の割合 **85.2%**



- ・施設全体では9割弱、在支診、訪問看護、在支歯診では約9割、病院では9割弱、訪問薬局では約8割。
- ・全施設で、前回調査より増加。

職種・機関別連携度

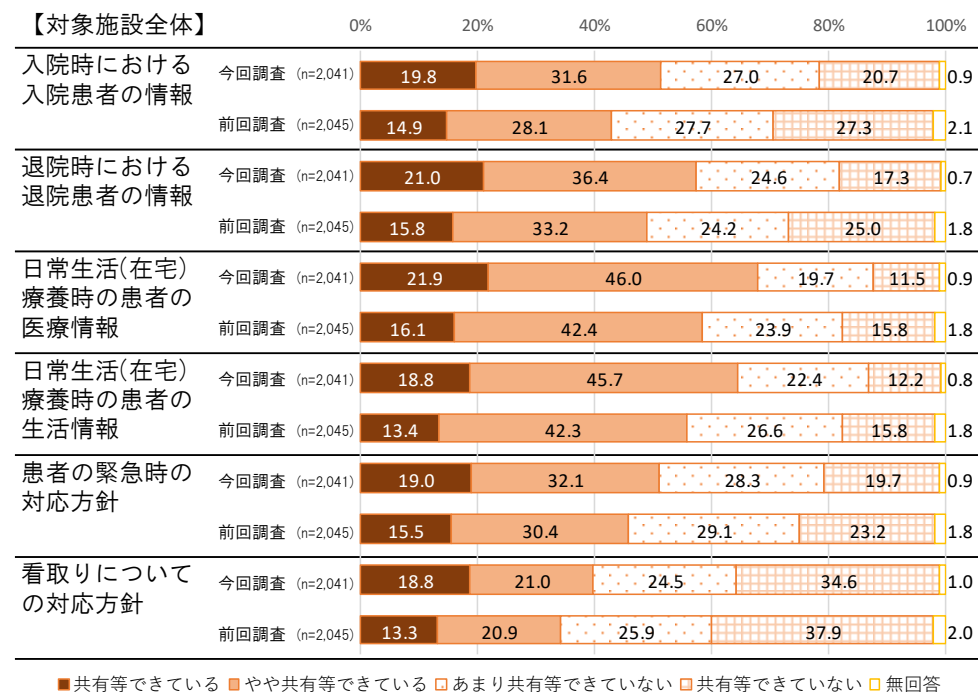
貴施設は、地域他職種・他機関と、それぞれ、どのくらい連携(連絡、相談、調整、意見交換、情報共有等)できていると思いますか



・「連携できている」「やや連携できている」を合わせた割合は、「居宅介護支援事業所・ケアマネジャー」、「診療所・医師」、「訪問看護事業所・訪問看護師」の順。

療養場面別連携度

貴施設は、患者の在宅療養における各場面において、地域他職種・他機関とどのくらい各種情報についての意見交換・共有ができていると思いますか

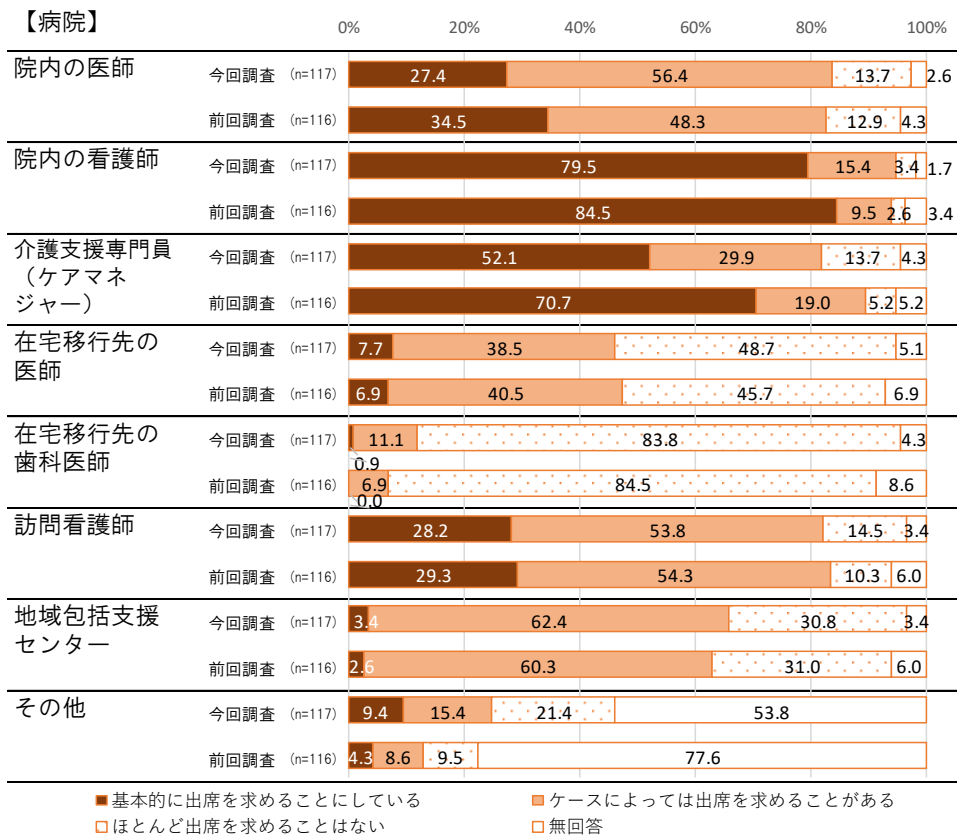


・「共有等できている」「やや共有等できている」を合わせた割合は、いずれも前回調査より増加しており、「日常生活(在宅)療養時の患者の医療情報」、「日常生活(在宅)療養時の患者の生活情報」の順。
・「看取りについての対応方針」が最も低い。

②プロセス指標

入退院カンファレンス

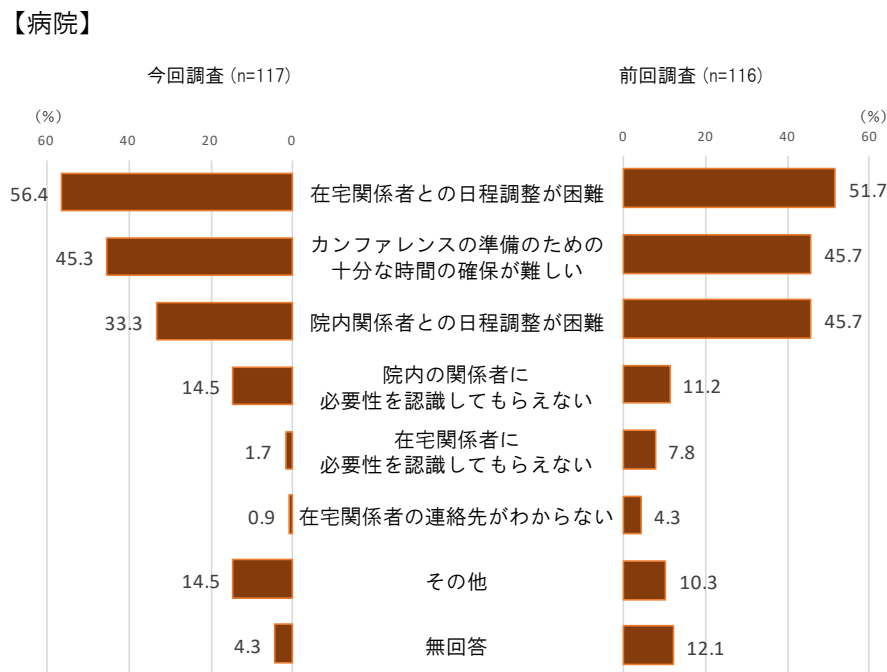
病院での入退院カンファレンスにおける各職種への出席要請に関する方針について



- ・「基本的に」もしくは「ケースによって」出席を求める割合は、「院内の看護師」が9割強、「院内の医師」「介護支援専門員(ケアマネジャー)」「訪問看護師」が8割以上。
- ・「在宅移行先の歯科医師」は「ほとんど出席を求めることはない」の割合が約8割。

入退院カンファレンス

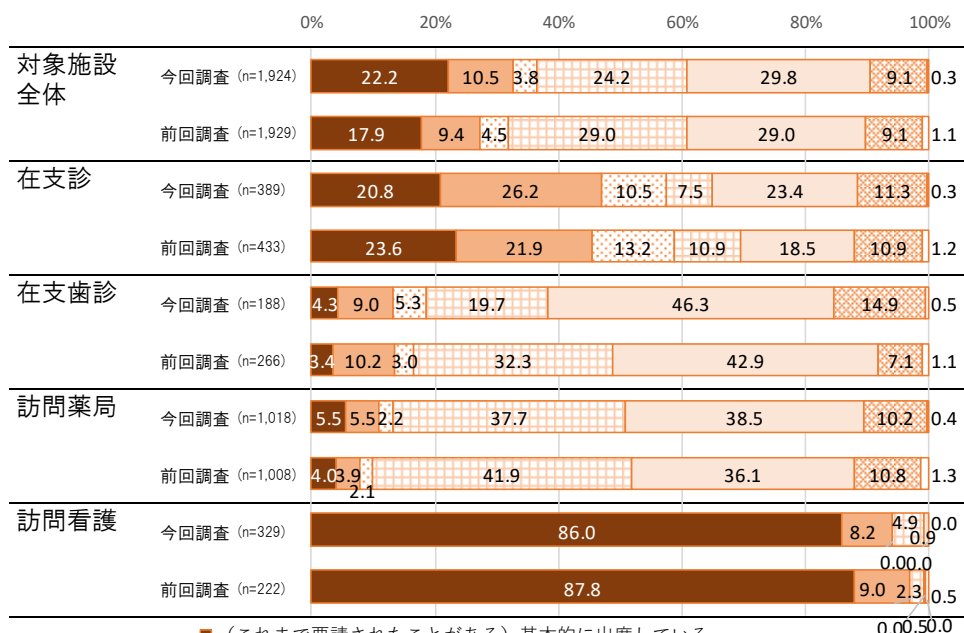
病院での入退院カンファレンスの開催における課題について (複数回答)



- ・「在宅関係者との日程調整が困難」が6割弱と最も多く、次いで、「カンファレンスの準備のための十分な時間の確保が難しい」、「院内関係者との日程調整が困難」の順。
- ・「在宅関係者に必要性を認識してもらえない」は前回調査より減少。

入退院カンファレンス

病院からの入退院カンファレンスへの出席要請有無及び対応について

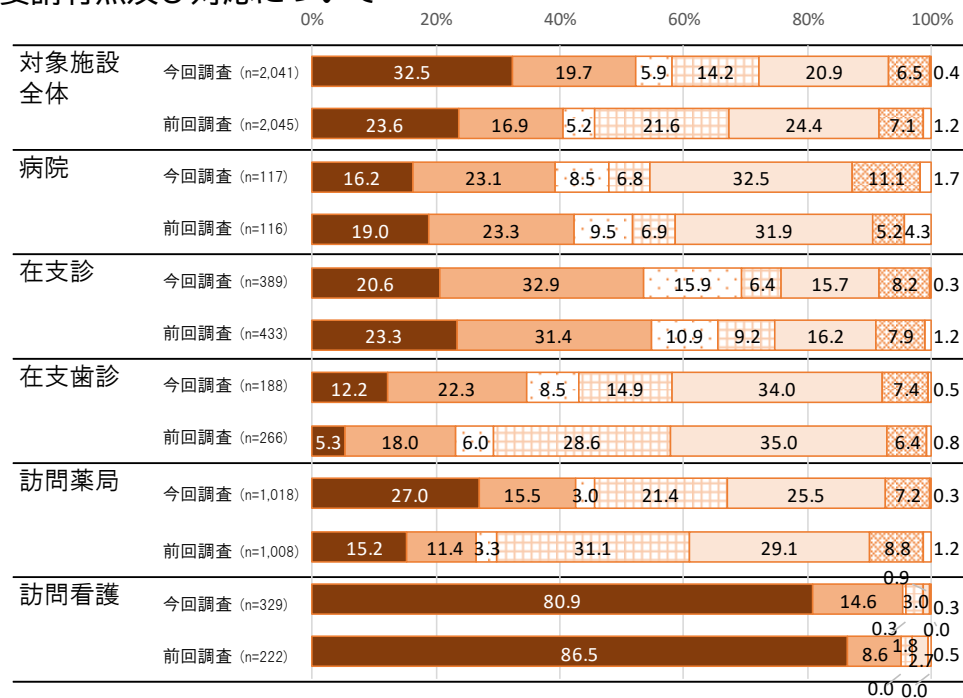


- (これまで要請されたことがある) 基本的に出席している
- (これまで要請されたことがある) ケースによっては出席している
- (これまで要請されたことがある) 出席は困難である
- (これまで要請されたことがない) 要請されれば基本的に出席したい
- (これまで要請されたことがない) 要請されればケースによっては出席したい
- (これまで要請されたことがない) 要請されても出席は困難である
- 無回答

- ・対象施設全体では、病院から入退院カンファレンスへ出席要請されたことがある施設は4割弱。
- ・出席要請の有無にかかわらず、「基本的に出席」「ケースによっては出席」と出席意向がみられる施設は9割弱。
- ・在支歯診、訪問薬局で、出席要請された割合は、前回調査より増加。

サービス担当者会議

介護支援専門員(ケアマネジャー)からのサービス担当者会議への出席要請有無及び対応について

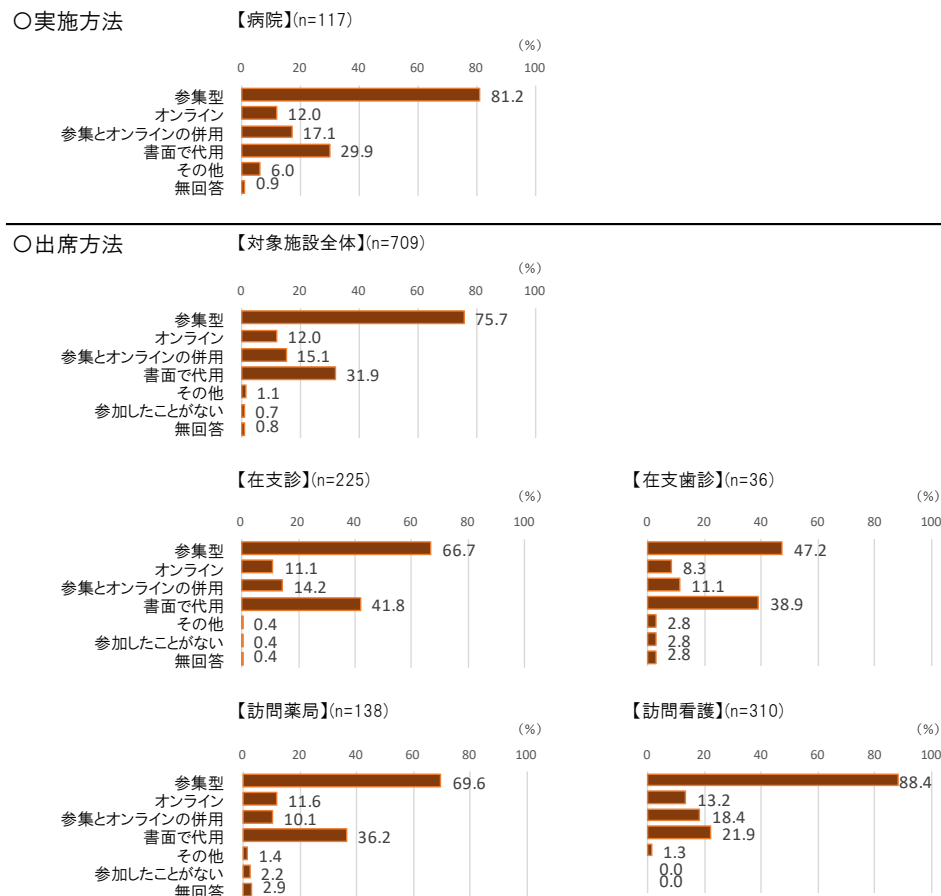


- (これまで要請されたことがある) 基本的に出席している
- (これまで要請されたことがある) ケースによっては出席している
- (これまで要請されたことがある) 出席は困難である
- (これまで要請されたことがない) 要請されれば基本的に出席したい
- (これまで要請されたことがない) 要請されればケースによっては出席したい
- (これまで要請されたことがない) 要請されても出席は困難である
- 無回答

- ・対象施設全体では、サービス担当者会議へ出席要請されたことがある施設は約6割。
- ・出席の要請の有無にかかわらず、「基本的に出席」「ケースによっては出席」と出席意向がみられる施設は9割弱。
- ・在支診、在支歯診、訪問薬局で、出席要請された割合は、前回調査より増加。

入退院カンファレンス／出席方法

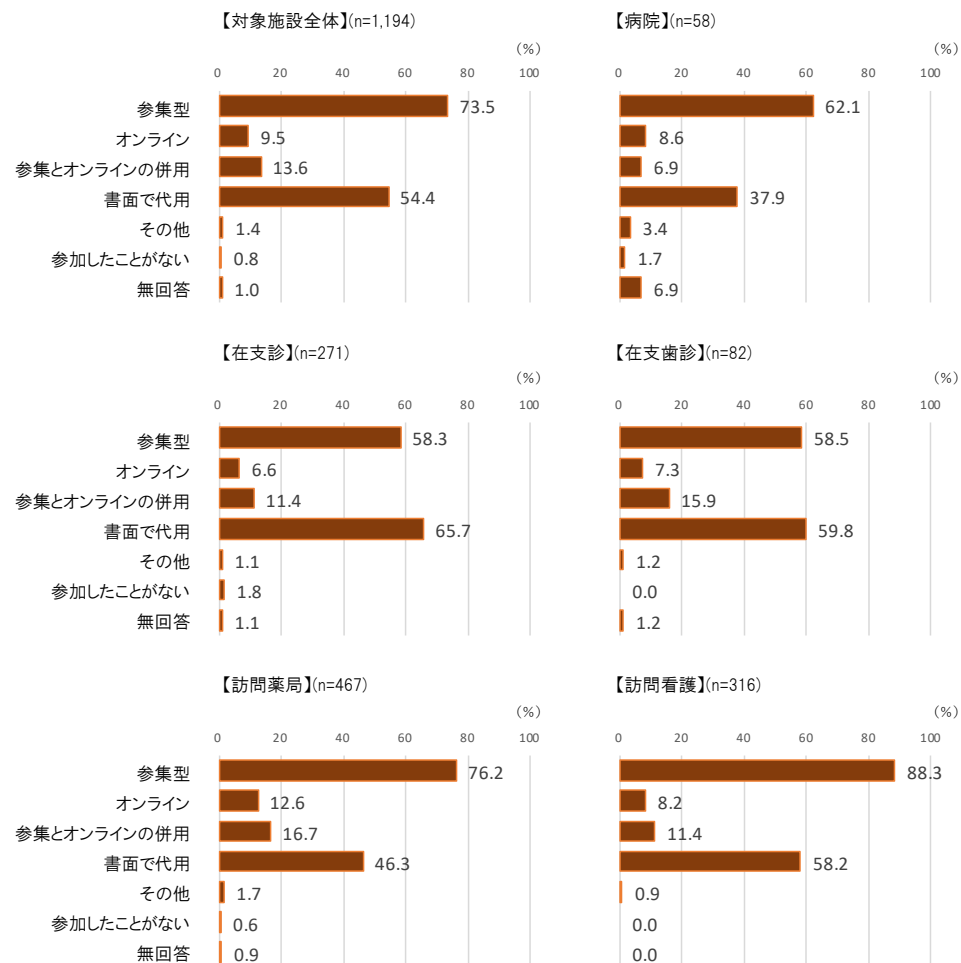
【病院】入退院カンファレンスの実施方法について(複数回答)
 【病院以外】入退院カンファレンスへの出席方法について(複数回答)



- ・病院での実施方法は、「参集型」が約8割と最も多く、次いで、「書面で代用」、「参集とオンラインの併用」、「オンライン」の順。
- ・対象施設全体での出席方法は、「参集型」が8割弱、次いで、「書面で代用」、「参集とオンラインの併用」、「オンライン」の順。

サービス担当者会議／出席方法

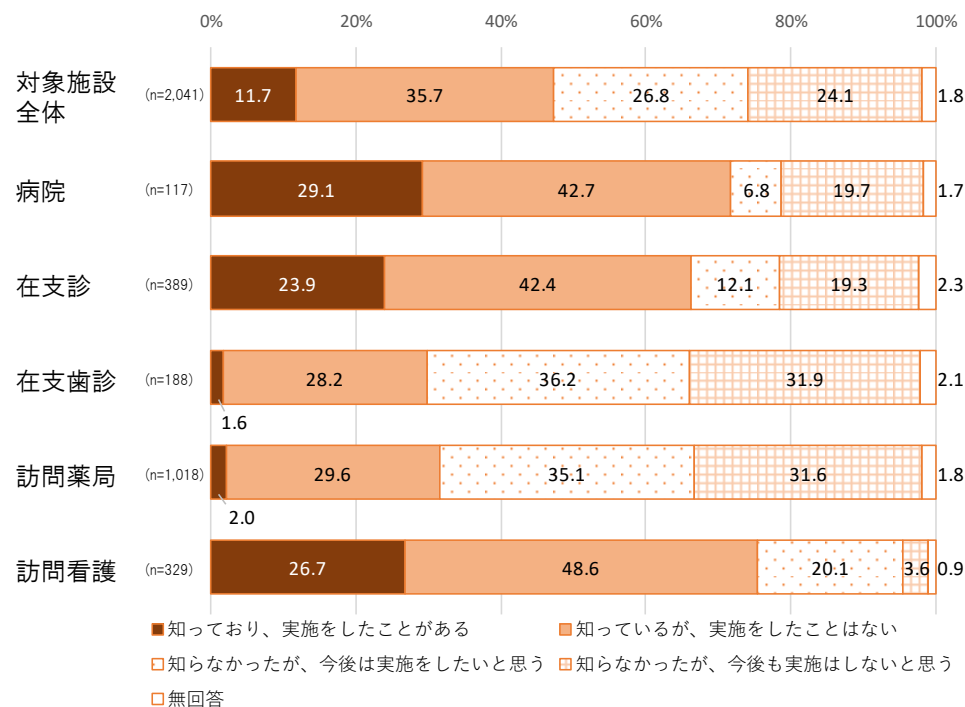
サービス担当者会議への出席方法について(複数回答)



- ・対象施設全体での出席方法は、「参集型」が約7割と最も多く、次いで、「書面で代用」、「参集とオンラインの併用」、「オンライン」の順。

ACP(人生会議)の実施状況

貴施設における、ACP(人生会議)の実施について



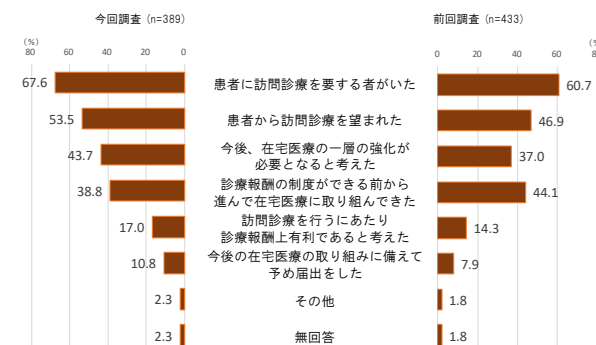
・対象施設全体では、「知っているが、実施をしたことはない」、「知らなかったが、今後は実施をしたいと思う」の順。
 ・「知っている」と回答した割合は、訪問看護8割弱、病院約7割、在宅診療7割弱、訪問薬局と在宅歯診療約3割の順。
 ・「知っており、実施をしたことがある」と回答した割合は、病院約3割、訪問看護3割弱、在宅診療2割強であるのに対し、在宅歯診療と訪問薬局は数%。

③連携推進の課題

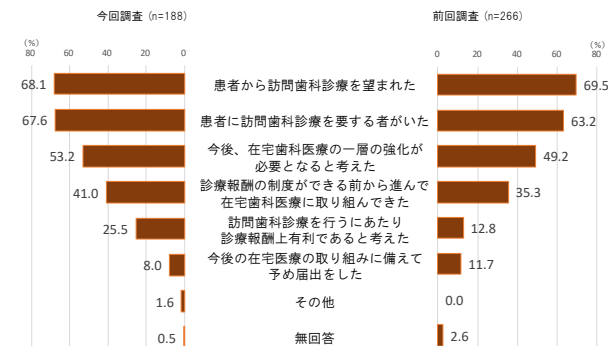
在宅診療等の届出理由

在宅療養支援診療所等を届け出した理由について(複数回答)

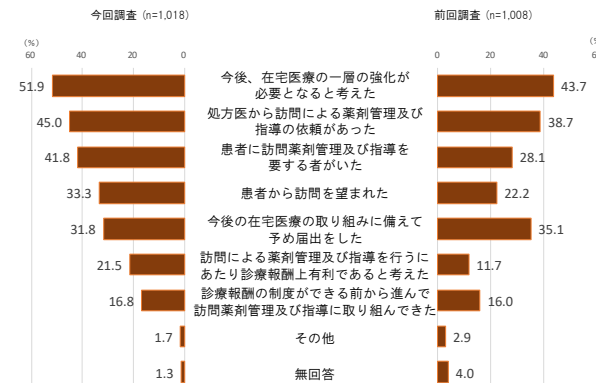
【在宅診療】



【在宅歯診療】



【訪問薬局】



【在宅診療】

・「患者に訪問診療を要する者がいた」、「患者から訪問診療を望まれた」、「今後、在宅医療の一層の強化が必要となると考えた」の順。

【在宅歯診療】

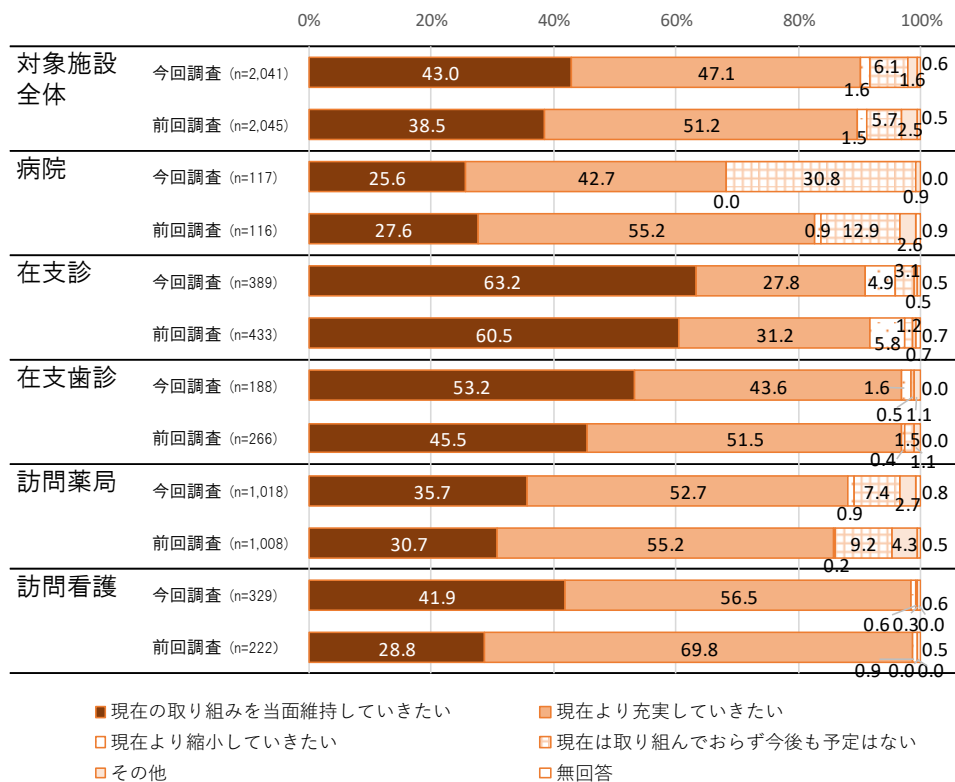
・「患者から訪問歯科診療を望まれた」、「患者に訪問歯科診療を要する者がいた」、「今後、在宅歯科医療の一層の強化が必要となると考えた」の順。

【訪問薬局】

・「今後、在宅医療の一層の強化が必要となると考えた」、「処方医から訪問による薬剤管理及び指導の依頼があった」、「患者に訪問薬剤管理及び指導を要する者がいた」の順。

在宅医療の今後の意向

貴施設での在宅医療の取り組みに関する今後の意向について

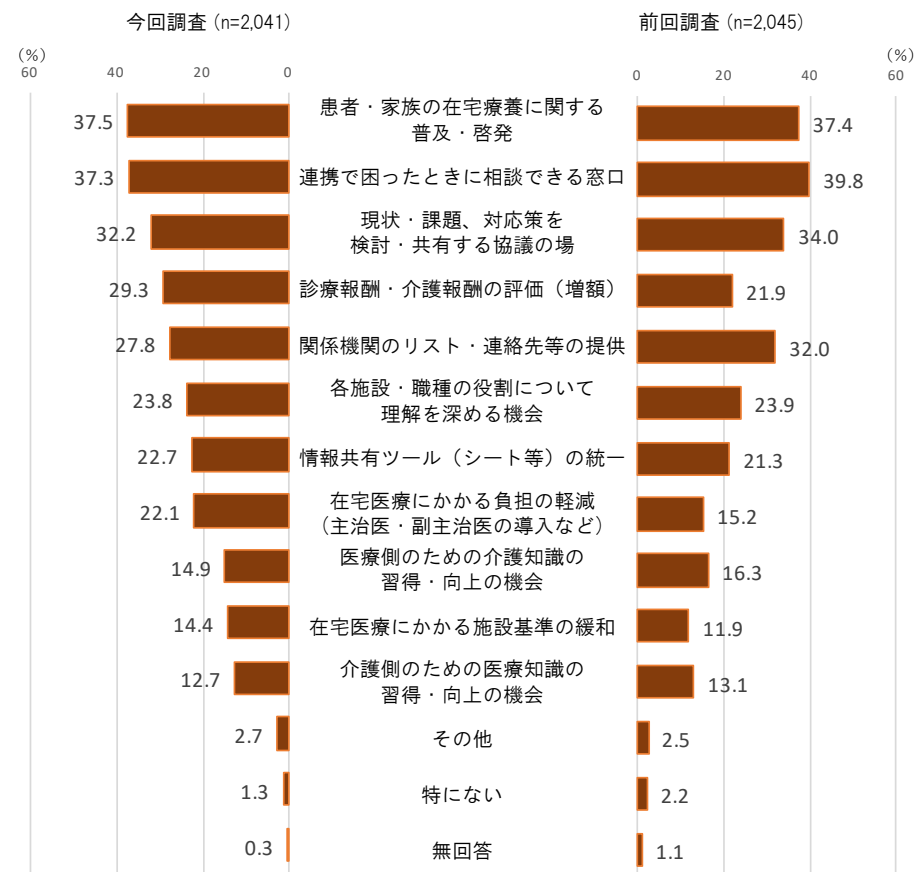


・対象施設全体では、「現在より充実していきたい」が5割弱と最も多く、次いで、「現在の取り組みを当面維持していきたい」が4割強の順。
 ・「現在より充実していきたい」の割合は、訪問看護、訪問薬局、在宅歯診、病院、在宅診の順。

在宅医療・介護連携の推進に必要なこと

在宅医療・介護連携の推進のために必要だと考えることについて（複数回答）

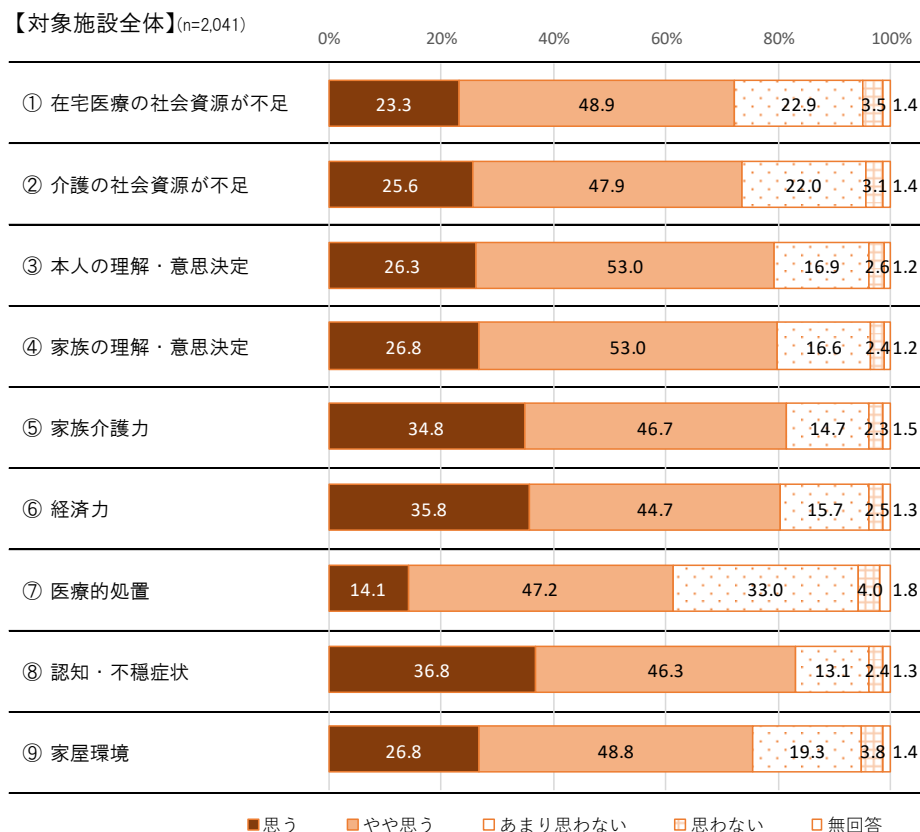
【対象施設全体】



・対象施設全体では、「患者・家族の在宅療養に関する普及・啓発」、「連携で困ったときに相談できる窓口」、「現状・課題、対応策を検討・共有する協議の場」の順。

在宅療養継続の課題

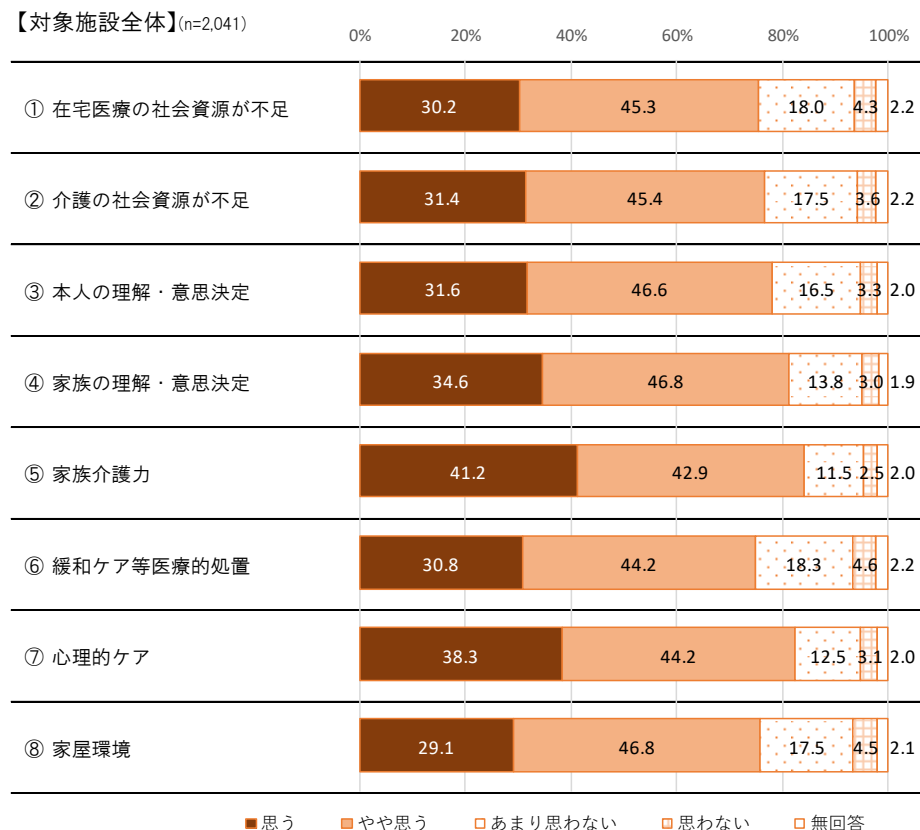
地域での在宅療養を継続するのに苦慮する課題について



・「思う」「やや思う」を合わせた割合は、「認知・不穏症状」、「家族介護力」、「経済力」の順で、8割以上。

看取りの課題

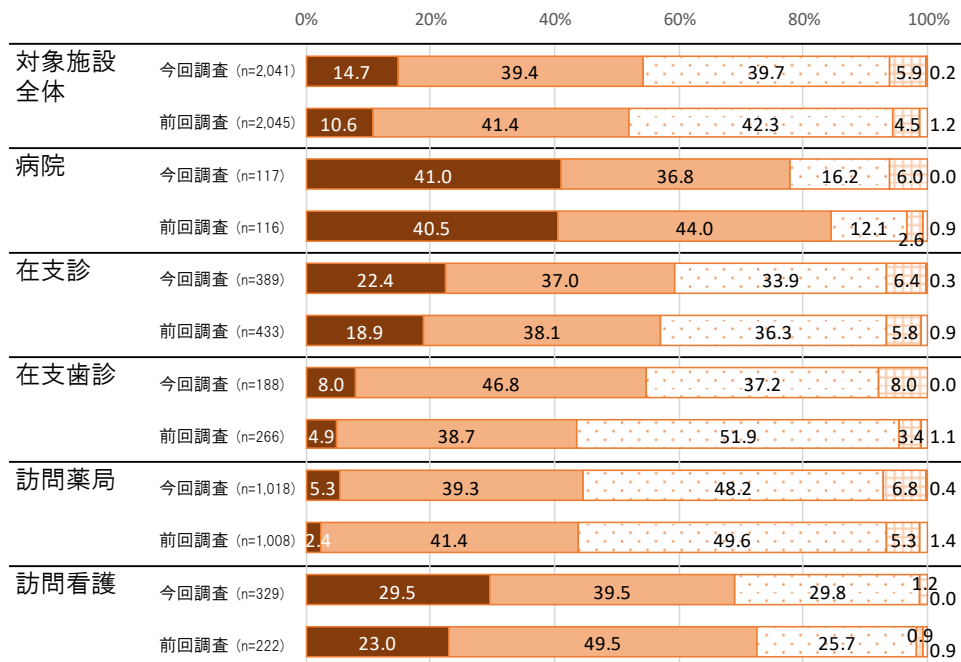
在宅での看取りにおいて課題だと考えることについて



・「思う」「やや思う」を合わせた割合は、「家族介護力」、「心理的ケア」、「家族の理解・意思決定」の順で、8割以上。

相談支援室

大阪市「在宅医療・介護連携相談支援室」の認知と利用実績について



■ 知っており、実際に相談・連携をしたことがある
 ■ 知っているが、実際に相談・連携をしたことはない
 □ 知らなかったが、今後は相談・連携したいと思う
 □ 知らなかったが、今後も相談・連携はしないと思う
 □ 無回答

- ・対象施設全体では、「知らなかったが、今後は相談・連携したいと思う」、「知っているが、実際に相談・連携をしたことはない」の順。
- ・「知っている」と回答した割合は、病院、訪問看護、在宅診、在宅歯診、訪問薬局の順。
- ・在宅歯診で前回調査より増加。

まとめ

①アウトカム指標

- ・貢献度、連携度、満足度は対象施設全体で、前回調査より増加している。
- ・職種・機関別連携度は、「歯科診療所・歯科医師」については、前回調査同様低くなっている。
- ・療養場面別連携度は、いずれも前回調査より増加しているが、「看取りについての対応方針」については低いままである。

②プロセス指標

- ・入退院カンファレンス、サービス担当者会議に出席要請された割合は、在宅歯診、訪問薬局で、前回調査より増加している。
- ・入退院カンファレンス、サービス担当者会議については、従前は参集型のみでの実施であったが、新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン等のツールを活用し、実施されている。
- ・ACP(人生会議)の認知度は、訪問看護、病院、在宅診で高く、訪問薬局、在宅歯診で低くなっている。

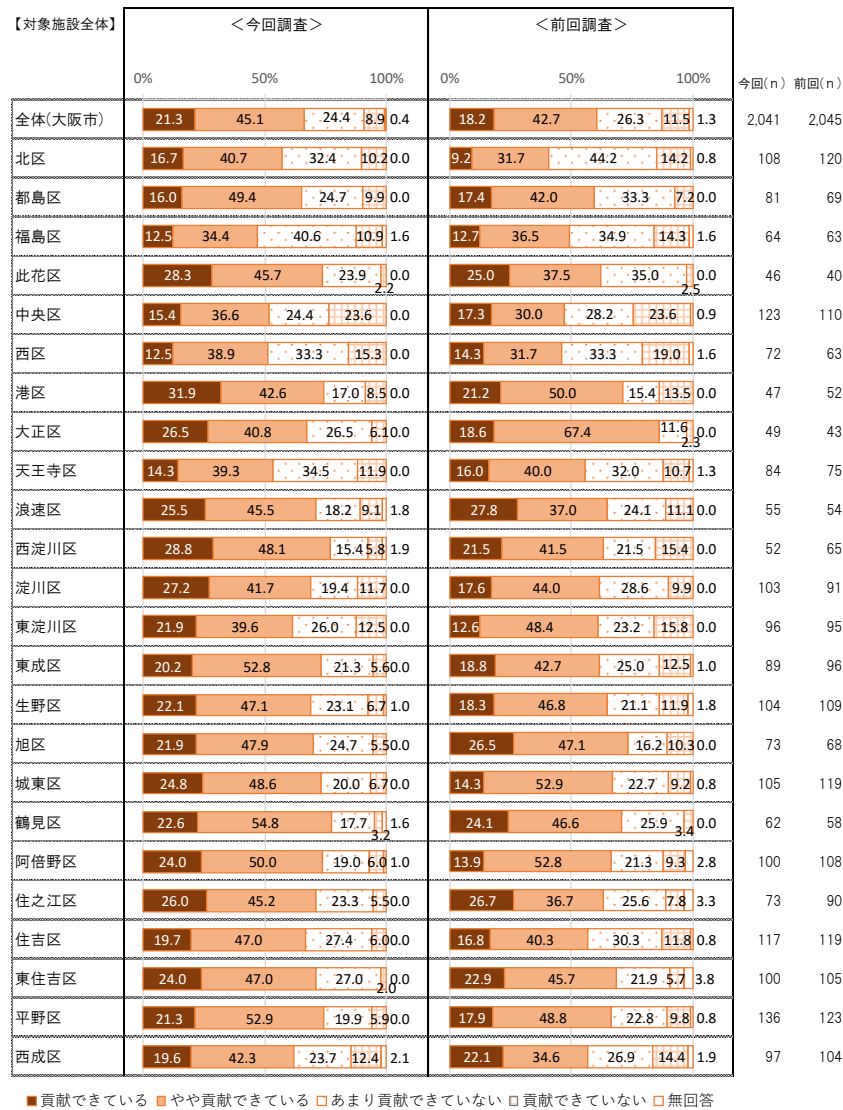
③連携推進の課題

- ・対象施設全体の9割が「現在の取り組みを維持」または「現在より充実」していきたいと考えている。
- ・在宅療養・介護連携の推進に必要なことは、前回調査同様「患者・家族の在宅療養に関する普及・啓発」「連携で困ったときに相談できる窓口」が上位となっている。
- ・在宅療養継続においては、「認知・不穏症状」「家族介護力」「経済力」が、看取りにおいては「家族介護力」「心理的ケア」「家族の理解・意思決定」が課題となっている。
- ・「在宅医療・介護連携相談支援室」の認知度の増加はわずかであるが、「知らなかったが、今後は相談・連携したいと思う」が4割を占めている。

参考（区別集計）

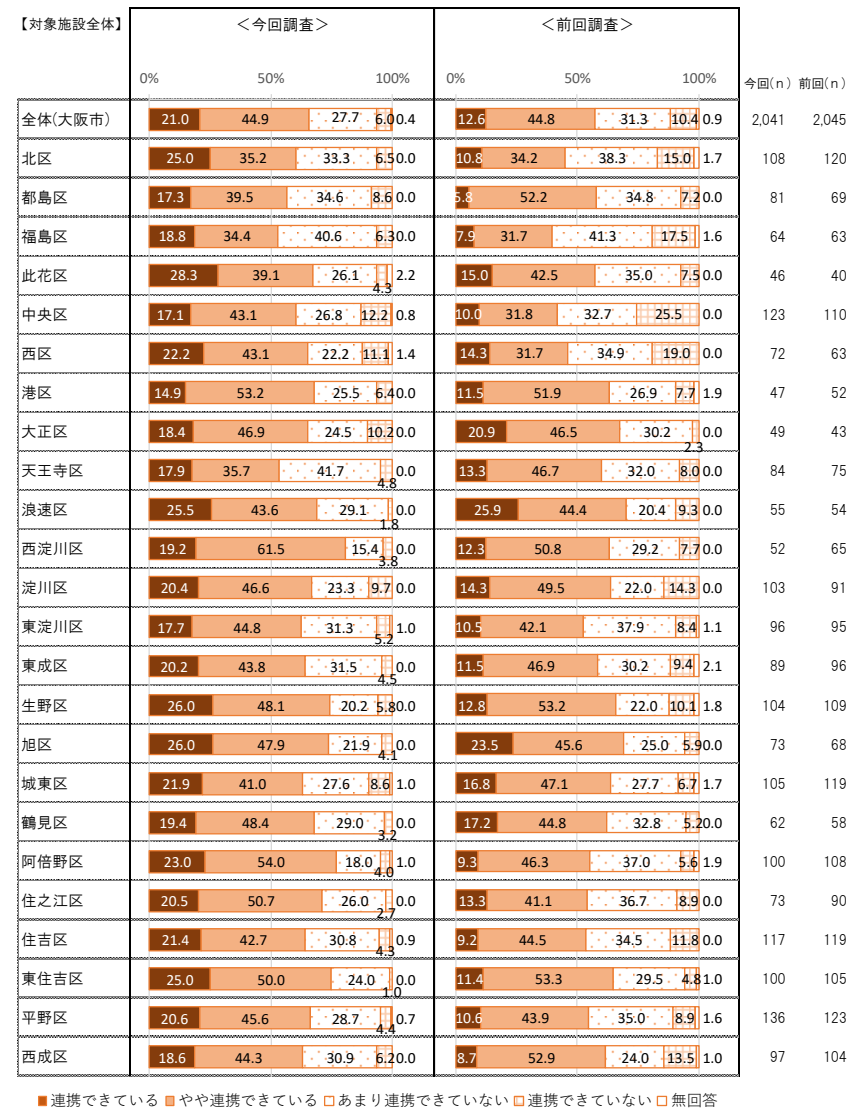
貢献度

貴施設は、地域の在宅医療の推進に対して、どのくらい貢献できていると思いますか



連携度

貴施設は、地域他職種・他機関と、全般的に、どのくらい連携(連絡、相談、調整、意見交換、情報共有等)できていると思いますか



満足度

あなたは、貴施設での仕事に満足感を感じていますか

